

国連大学/ユネスコ国際会議

「アフリカとグローバリゼーション：過去から学び、未来に備える」

平成 21 年 9 月 28 日（月）9:30～10:00、国連大学本部ウ・タントホール

中川正春文部科学副大臣挨拶（案）

福山哲郎外務副大臣、松浦ユネスコ事務局長、オスターヴァルダー国連大学長、ご来賓・ご来場の皆様、文部科学省を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日ここに、国連大学とユネスコの共催による「アフリカとグローバリゼーション：過去から学び、未来に備える」をテーマとする国際会議が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

さて、グローバル化が進み、世界がますます一体化する一方で、多くの日本人にとって、依然、アフリカは遠い国々として捉えられているのではないのでしょうか。しかし、21 世紀の抱える多くのグローバルな課題を解決するためには、アフリカを含めた国際的な協働が不可欠です。

文部科学省からの資金提供により、国連大学が昨年度から始められた「アフリカの持続可能な開発のための教育（ESDA; **E**ducation for **S**ustainable **D**evelopment in **A**frica）」事業は、その良い例でしょう。アフリカの大学は、日本の大学に比べ、学術、経営、組織等のあらゆる面で、未だ脆弱であるといえます。国連大学の環境、平和、開発分野におけるこれまでの輝かしい研究の蓄積が、日本とアフリカの大学間連携ネットワークのもとで効果的に活用されることを願っております。

また、文部科学省においても、途上国の持続的発展に対する知的貢献

の一環として、大学等の知見を活かした国際協力活動を促進し、平成 19 年度より「国際協カイニシアティブ」に取り組んで参りました。そのなかでも、昨年 5 月に横浜にて開催された第 4 回アフリカ開発会議の成果などを踏まえ、特にアフリカ向けの取組みを重視しております。現在、本事業を通じ、国内 5 つの大学が、アフリカの大学と協働体制を構築し、持続可能な発展のための教育、すなわち、ESD（**E**ducation for **S**ustainable **D**evelopment）の国際協力モデルの形成に向けて活動しております。

「国連 ESD の 10 年」の主導機関として、ユネスコが ESD において大きな役割を担っておられることは言うまでもありません。アフリカの持続可能な発展のため、初等教育の普及や人材養成等、我々が協力できる分野は多くあります。

本日、こうして世界の ESD 事業を牽引するユネスコ、国連大学、日本政府の代表者がここに集まりました。本日を契機に、改めて、我々の協力体制を確固たるものとし、共にアフリカの未来を温かく見守っていただければと思います。

また、アフリカ開発の第一人者でおられる講演者の皆様をはじめ、本日お集まりの皆様にも、現場からの貴重なご意見を賜れましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の会議が実り多いものとなりますことを祈念するとともに、開催にあたり御尽力された国連大学、ユネスコおよび関係の皆様への感謝の意を表し、私の挨拶とさせていただきます。